

AVニュース エキスポレス

教育・学習へのIT活用シンポジウム—平成14年度Eスクエア・アドバンス成果発表会—開催
国際教育シンポジウム「21世紀のe-education 日米の展望」開催
(財)松下視聴覚教育研究財団「第14回研究賞」受賞者決定
第41回(平成15年度)「日本産業映画・ビデオコンクール」開催要項発表
「第14回兵庫県丹波篠山ビデオ大賞～全国アマチュアビデオコンテスト～」入賞作品決定
2003年 I CEM 会員募集

研究会情報

■教育・学習へのIT活用シンポジウム—平成14年度Eスクエア・アドバンス成果発表会—開催

(財)コンピュータ教育開発センターでは、「IT活用と教育効果—広げる 深める つなげる—」をテーマに標記成果発表会を開催する。発表会では、各種取り組みの成果報告をはじめとして、全国各地の先進的な教育機関の取り組み、地域の産業界と連携した授業などITを活用したさまざまな授業実践事例を紹介するとともに、教育用情報機器等の展示会も開催される。

〈開催日〉

平成15年3月7日(金)～8日(土)

〈会場〉

東京ファッションタウンビル
(臨海副都心 国際展示場正門駅前)

〈内容〉

○基調講演「IT活用と教育効果」

赤堀侃司氏(東京工業大学教授)

○特別講演「情報教育と授業におけるコンテンツ活用」

永野和男氏(聖心女子大学教授)

○分科会:Eスクエア・アドバンス

成果報告/「教育用画像素材集」

活用事例/「地域産業協力授業」

実践事例/「未来の教室」モデル

授業/先進的な地域の取組み/

全国横断的な取組み

〈参加費〉無料

〈問い合わせ先〉

(財)コンピュータ教育開発センター

〒105-0001 東京都港区虎

ノ門1-23-11

TEL03-3593-1804

FAX03-3593-1806

■国際教育シンポジウム「21世紀のe-education 日米の展望」開催

早稲田大学ならびに早稲田大学IT教育研究所主催による標記

シンポジウムが東京と京都にて開催される。

【東京会場】

〈開催日時〉

平成15年3月9日(日)

午前9:30～午後5:30

〈会場〉

早稲田大学国際会議場「井深大

記念ホール」

東京都新宿区西早稲田1-20-14

〈内容〉

○特別講演1「米国の教育におけるテクノロジーについて」Ray Myers氏(Office of Educational Technology, Office of the Secretary, U.S Dept of Education)

○特別講演2「日本の情報教育の動向について」榎原靖氏(文部科学省生涯学習政策局学習情報政策課長)

○パネルディスカッション「日米のe-educationの特徴と相違点を比較検討し、今後の展望を探る」コーディネーター 堀田龍

ブックレビュー



「実践に学ぶ情報教育
- これからの学習を変える -」

赤堀侃司著 ジャストシステム
2002年11月刊 四六判 256頁
1,600円(税別)

厚生労働省の「児童環境調査」(平成13年度)の結果が最近発表された。3歳児から中学3年生までの子どもを対象とした比較的大規模なアンケート調査である。携帯電話の所有率は全体で11%にのぼり、中学生では26.7%の高率である。ゲーム専用コンピュータは36.9%が保有し、専用のテレビも全体で20%が持っている。まさに「IT化」が急速に進み、教育の場にも「ユビキタス」=ubiquitous(どこでも、いつでも、誰でも)の状況が出現しようとしている。

したがって、学校教育における「情報教育」、特に「情報活用能力」(実践力、科学的な理解、参画する態度)の実効ある展開がますます必要となってきた。

本書は、これらのキーワードに即し『ダイヤモンドのように

輝いている』実践事例の意味づけを、著者自身の教育現場での豊富な「参与観察」をまじえ鋭く解説している。その事例の対象の幅は広く、国内だけでも12の小中高が含まれている。さらに、課題学習の英国の高校、米国サンフランシスコの補習授業校をはじめ、タイ、ベトナムの日本人学校、シンガポールの中学校、ホンコンの小学校の実践例など、国際的な視野が提供されている。

今後の「情報教育」の方向性として注目されるのは、著者も同様であろうが、Webサイトを最大限活用したCSCL(コンピュータ支援の協同学習)である。この点も、神戸市と千葉市の中学校の実践例が紹介され、現場の教師にとって非常に興味深い著作となっている。(川崎医療福祉大学大学院教授 詫間晋平)

也氏(静岡大学助教授)／パネリスト 三橋秋彦氏(東京都墨田区立墨田中学校教諭)他

【京都会場】

〈開催日時〉

平成15年3月11日(火)

午前9:30~午後4:30

〈会場〉

京都リサーチパーク 西地区4号館2階

京都市中京区中堂南町134番地

〈内容〉

○特別講演1:東京会場と同じ

○特別講演2:「学校教育におけるe-learningの現状と展望~学校教育と実務教育のあり方」宮澤賀津雄氏(早稲田大学IT教育研究所助教授)

○パネルディスカッション:「日米のe-educationの特徴と相違点を比較検討し、今後の展望を探る」コーディネーター 田中博之氏(大阪教育大学助教授)／パネリスト John Mikton氏(Elementary

Technology Specialist, American School in Japan)他

〈対象〉

教育関係者、企業、一般

〈参加費〉

無料(但し資料代:1,000円)

〈問い合わせ先〉

国際教育シンポジウム事務局(担当:東井・麻生)

<http://www.jeric.gr.jp/sympo2003/sympo2003.html>

TEL03-5286-3988

FAX03-5292-5258

コンクール情報

■(財)松下視聴覚教育研究財団「第14回研究賞」受賞者決定

(財)松下視聴覚教育研究財団は、このほど標記「研究賞」の受賞者を発表した。この賞は、実践研究助成の助成者から研究成果を育て深めるために、視聴覚メディア・情報メディアの活用研究報告を募集し褒章的助成

を行うもので、該当は次の通りである。

〈文部科学大臣賞〉

「児童自らが中心になって進める楽しいコンピュータ活用の研究」(岡山県和気町立和気小学校)

〈理事長賞〉

「情報ネットワークを活用したデジタルポートフォリオ評価の実践」(茨城県つくば市立竹園東小学校)

「生徒一人ひとりを励まし支援するネットワークを利用した評価システムの開発」(愛知県小牧市立小牧中学校)

その他、森戸辰男記念賞に2受賞先が決まった。

■第41回(平成15年度)「日本産業映画・ビデオコンクール」開催要項発表

(社)日本産業映画協会は、すぐれた産業映画・ビデオを選奨し、その質を高め普及を図るとともに、日本の教育・文化の

日本ビクター(株)は、室内撮影に効果的な、明るい「F1.2スーパーブライトアスフェリカル(非球面)レンズ」と、高精細動画を実現する1/4型高感度133万画素メガピクセルCCDを採用し、最低照度6ルクスを実現したデジタルビデオカメラ「GR-DV900K」(3.5型液晶モニター付)と「GR-DV700K」(2.5型液晶モニター付)の2モデルを3月上旬に発売する。

最近のデジタルビデオカメラ市場においては、動画も静止画もより高画質で撮影したいというユーザーニーズから、メガピクセルCCD搭載機の人気が高まっている。しかし、室内撮影時には、十分な画質が得られないケースが多くあった。このような背景から、本機は、低照度下での画質の向上を図るため、

ハードウェア



デジタルカメラ 「GR-DV900K /GR-DV700K」

〈価格〉オープン

〈問い合わせ〉
日本ビクター(株)
お客様相談センター
03-5684-9311

①屋外撮影だけでなく使用頻度の高い低照度室内撮影における高精細記録の実現、②快適な操作性や、安心、便利機能の充実、③パソコンとの高い親和性の3点を重点に開発。使いやすさと基本性能の向上をはかり、先進の機能を充実させた。

〈主な特長〉

1. 室内撮影に効果的な、明るい「F1.2スーパーブライトアスフェリカルレンズ」搭載
2. 明るい高精細動画を実現する1/4型高感度133万画素メガピクセルCCD採用
3. 素早く撮影でき、電源切り忘れも防止する「クイックパワーオフ」機能
4. 手軽にDV映像をパソコンに取り込めるUSB動画転送機能
5. パソコンでの動画編集やビデオCDの作成が手軽に楽しめる

向上と産業の振興に寄与することを目的に、標記コンクールを開催する(協賛:日本視聴覚教育協会他)。参加部門は、教育訓練部門、学術・研究部門、教養部門等(8部門)。応募締切は平成15年3月31日(月)。

〈問い合わせ先〉

日本産業映画協議会事務局
〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 毎日新聞社内
TEL03-3213-2696
FAX03-3213-2787

各地の情報

■「第14回兵庫県丹波篠山ビデオ大賞~全国アマチュアビデオコンテスト~」入賞作品決定

地方からの情報発信と映像による人づくり地域づくりを進めることを目的に開催している標記コンテストは、全国から59本の作品が寄せられ、予選を通過した13本から各賞が決定した。

○ビデオ大賞:ハサミにかけた半生/阪下千代美(兵庫県)

○兵庫県知事賞:いっしょに生きる/金子喜代子(神奈川県)

この他、11作品が入賞。詳細は下記アドレスへ。

<http://edu.city.sasayama.hyogo.jp>

海外情報

■2003年 I C E M 会員募集

I C E M とは International Council for Educational Media (国際教育メディア協議会) のことで、視聴覚教材の製作・配給・情報提供に関する加盟各国の協力を奨励するために作られた協議会で、時代のメディアに関心の深い世界の主だった約28か国が協力しあっている組織である。I C E M では、加盟国それぞれに代表会員を設ける制度がある(日本は日本視聴覚教育協会)。

また、希望すれば会員になれ

る(①個人会員、②小・中・高等学校会員、③公益法人・大学・専門学校会員、④企業会員、⑤学生・退職者会員)の5種類の会員制度がある。会費はそれぞれ85・135・205・275・40ドルとなっている。現在、日本からは個人会員7名、退職者会員3名、企業会員1社が登録されている。

2003年の会費は、個人会員で85ドル(年4回の機関誌代と資料等の郵送料を含むと日本円で9000円)。会員は、I C E M 主催の「国際教育メディア週間」(世界の教材見本市)、や「国際研究集会・年次総会」(今年は10月にノルウェーのオスロ)に参加でき、I C E M や協会からの情報や資料が送られる。

なお、I C E M に関するお問い合わせや、入会希望の方は、日本視聴覚教育協会・編集部佐藤まで。TEL03-3591-2186